

## 学習する時代

この古墳<sup>こふん ほうむ</sup>に葬<sup>うめ</sup>られた人はどのような人だったのでしょうか。

なぜ、このような立派な石室をつくることができたのでしょうか。みんなで考えてみましょう。



## 写真1 せきしつ 石室のようす



**写真2** せきしつ  
**石室からの出土品**



**写真3** とくしまけんりつまいぞうぶん か ざいそうごう ほ ぞん てん じ  
徳島県立埋蔵文化財総合センターで保存・展示しています



## 学習のねらい

- (1) 古墳築造の特色から当時の徳島県地方の勢力が大和朝廷と深くつながっていたことを理解させる。
- (2) 文化財を保護し継承しようとする態度を養う。

## 解説

### (1) アワ国のはじまり

古墳時代とは、一般に3世紀半ば過ぎから7世紀までの約400年間を指しますが、中でも3世紀半ば過ぎから6世紀までは全国的には多くの地域で前方後円墳(徳島県内では5世紀後半からは築かれなくなります。)が造られていた時代です。王墓である前方後円墳が築かれた地域には、国としてのまとまりがうかがえます。

アワで最初に作られた前方後円墳は宮谷古墳(徳島市国府町)です。しかし、それ以前のアワの王墓は実に多彩です。積石塚の萩原1号墓・2号墓(鳴門市大麻町)、結晶片岩(青石)を組み上げた前方後円墳なみの竪穴式石室の西山谷2号墳などがそれです。そして、近年の研究によって最初に前方後円墳が建設されたヤマトとアワとが深くつながっていたことがわかってきました。なぜなら、近畿地方の前方後円墳にアワの結晶片石(青石)を使った竪穴式石室をみることができるからです。つまり、このことからアワの首長(豪族)がヤマトの首長連合(大和朝廷)に係っていたと考えられます。

### (2) 写真の解説

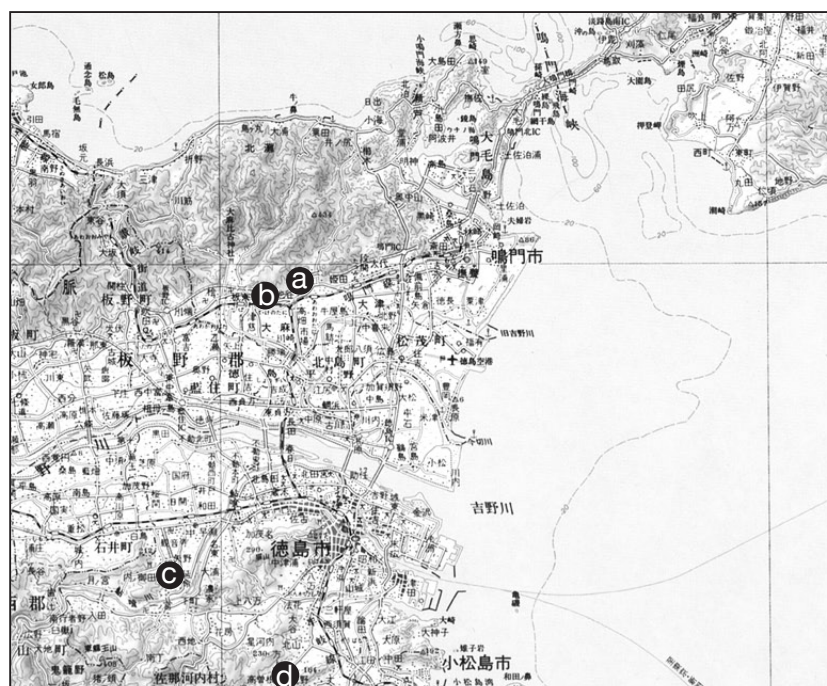
西山谷2号墳は、直径約20m、墳丘の高さ約2mの円墳です。四国横断自動車道建設に伴い1999年～2000年(平成11年～平成12年)に発掘調査されました。鳴門市大麻町の讃岐山脈南麓の高さ74mの尾根上に、立派な竪穴式石室や北枕など、近畿地方中心部勢力との結びつきを示す遺構が発見されました。当時、ヤマトにとって、朝鮮半島の鉄資源を確保することが政権拡大のための最重要課題でした。そのためには瀬戸内海の海運を掌握することが必要であり、このことから四国地域の勢力がヤマトとの関係において大きな役割を果たしていたことが想像できます。

石室は、吉野川の南岸で産出する結晶片岩(青石)を使い、古墳の中央部に築かれていました。長さが4.7m、幅が0.83m～1.05mありました。石室に葬られた人物は、水銀朱がまかれたくりぬき式木棺に安置され、銅鏡、鉄剣、鉄鏃、鉄槍、ヤリガナ、土器が副葬されていました。

なお、この古墳の石室は、3世紀後半頃(古墳時代初頭)に作られた全国でも最も古い石室の一つであり、また畿内型石室の祖形であるかもしれないという重要性から、関係者の理解と協力により、徳島県立埋蔵文化財総合センターに移設、展示されています。

中期になると前方後円墳は大型化し、アワでも渋野丸山古墳(徳島市渋野町)のように100mを超える古墳が築造されます。乗馬の風習や須恵器、横穴式石室などの新しい文化や技術も大陸より伝来します。後期には、横穴式石室が広く採用され、吉野川流域を中心に地域色の強い石室が築造されます。そして、律令制度が取り入れられ、古墳にかわって寺院が建立されるようになると、古墳の築造は徐々に終焉を迎えます。

### (3) 西山谷2号墳位置図



- a 西山谷2号墳  
 b 萩原1号墓・2号墓  
 c 宮谷古墳  
 d 渋野丸山古墳

### (4) 西山谷2号墳遠景



かつて存在した吉野川河口の巨大な入り江を見おろしています。  
(西から西山谷2号墳を望む)